

# 山村振興計画書

都道府県名	市町村名	作成年度 (変更年度)
徳島県	吉野川市	平成18年度 (平成27年度)
振興山村名	三山村 (旧山川町)	東山村・中枝村・三山村 (旧美郷村)
指定番号	昭和42年 (第291号)	昭和43年 (第455号)

## I. 地域の概況

### 1. 自然的条件

#### (1) 地理、地勢

本市は徳島県北部のほぼ中央、吉野川の中流域南岸にあり、北は同川を挟んで阿波市、東から南は名西郡、西は美馬市に隣接している。市の南部は四国山地の北部にあたる山地で高越山をはじめ急峻な山々が連なる。

本市の振興山村（以下、「本地域」という。）は、旧三山村と東山村、中枝村である。本地域は、吉野川中流にそそぐ川田川の上流にあり、四国山系高越山とその急傾斜地帯に集落を形成している。総面積67.17km<sup>2</sup>のうち56.57km<sup>2</sup>（約84.2%）が林野であり、本地域の主要産業は農林業であるものの、経営規模は零細であり、農林業共に生産性も低くほとんどが兼業で、後継者が少なくなっている。

#### (2) 気候

気候は比較的温暖で、四季を通じて穏やかである。地震等の災害の影響を受けにくいことから、総じて住みやすい自然環境にある。

## 2. 社会的及び経済的条件

### (1) 人口の動向

本市の人口は、平成12年から平成22年の間に約5.9%減少し、44,020人となっている。また、65歳以上の高齢化率は約30.4%となっている。

本地域の人口は、平成22年で1,301人となっている。平成12年から平成22年の間では、本市の平均を上回る約22.7%減少している。また、65歳以上の高齢化率は本市の平均を上回る約49.0%となっている。このため、担い手不足による森林、農用地などの管理機能の低下が見られる。

年齢階層別人口の動向

(単位：人、%)

年度	振興山村					
	総数	0～14歳	15～29歳	30～44歳	45～64歳	65歳以上
H7年	1,970 (100.0%)	224 (11.4%)	221 (11.2%)	288 (14.6%)	591 (30.0%)	646 (32.8%)
H12年	1,682 (100.0%)	152 (9.0%)	178 (10.6%)	190 (11.3%)	491 (29.2%)	671 (39.9%)
H17年	1,469 (100.0%)	103 (7.0%)	152 (10.3%)	142 (9.7%)	415 (28.3%)	657 (44.7%)
H22年	1,301 (100.0%)	89 (6.8%)	98 (7.5%)	118 (9.1%)	359 (27.6%)	637 (49.0%)

年度	市全体					
	総数	0～14歳	15～29歳	30～44歳	45～64歳	65歳以上
H7年	48,383 (100.0%)	7,490 (15.5%)	7,699 (15.9%)	9,114 (18.8%)	13,422 (27.7%)	10,658 (22.0%)
H12年	46,794 (100.0%)	6,349 (13.6%)	7,406 (15.8%)	7,709 (16.5%)	13,350 (28.5%)	11,980 (25.6%)
H17年	45,782 (100.0%)	5,609 (12.3%)	6,574 (14.4%)	7,355 (16.1%)	13,380 (29.2%)	12,864 (28.1%)
H22年	44,020 (100.0%)	5,046 (11.5%)	5,463 (12.4%)	7,182 (16.3%)	12,938 (29.4%)	13,391 (30.4%)

## (2) 産業構造の動向

本市における産業別就業人口は、平成22年度時点で、第1次産業約7.3%、第2次産業約25.0%、第3次産業約64.2%となっている。

本地域における産業別就業人口は、平成22年度時点で、第1次産業約31.1%、第2次産業約22.3%、第3次産業約39.9%となっている。本市全体と比較して第1次産業の割合が高いのが特徴であり、梅、ゆず、すだちなどの生産量が多い。

### 産業別就業人口の動向

(単位：人、%)

年度	振興山村				市全体			
	全体	1次産業	2次産業	3次産業	全体	1次産業	2次産業	3次産業
H7年	1,012 (100.0%)	358 (35.4%)	337 (33.3%)	317 (31.3%)	23,077 (100.0%)	2,694 (11.7%)	7,558 (32.8%)	12,789 (55.4%)
H12年	873 (100.0%)	310 (35.5%)	261 (29.9%)	302 (34.6%)	21,472 (100.0%)	2,143 (10.0%)	6,560 (30.6%)	12,704 (59.2%)
H17年	702 (100.0%)	260 (37.0%)	182 (25.9%)	245 (34.9%)	20,625 (100.0%)	1,878 (9.1%)	5,569 (27.0%)	12,613 (61.2%)
H22年	521 (100.0%)	162 (31.1%)	116 (22.3%)	208 (39.9%)	18,813 (100.0%)	1,373 (7.3%)	4,707 (25.0%)	12,071 (64.2%)

#### (4) 財政の状況

平成26年度の吉野川市の財政状況は、経常収支比率が88.0%と、平成17年度に比べると、0.9ポイントの増であった。また、財政力指数は0.39と、平成17年度に比べると0.02ポイントの減であり、今後も健全な財政運営に努める必要がある。

#### 市町村財政の状況（市全体）

(単位：千円、%)

区 分	平成17年度	平成26年度
歳入総額 A	20,174,680	20,604,838
一般財源	12,298,093	13,014,329
国庫支出金	2,172,449	2,442,050
都道府県支出金	1,158,058	1,436,144
地方債	1,719,500	1,782,100
その他	2,826,580	1,930,215
歳出総額 B	19,512,639	19,643,444
義務的経費	8,899,576	9,859,833
投資的経費	2,833,087	1,846,308
うち普通建設事業	2,375,508	1,786,153
その他	7,779,976	7,937,303
歳入歳出差引額 C (A-B)	662,041	961,394
翌年度へ繰越すべき財源 D	174,293	96,367
実質収支 C-D	487,748	865,027
財政力指数	0.41	0.39
公債費負担比率	14.5	16.2
実質公債費比率	14.2	10.9
経常収支比率	87.1	88.0
地方債現在高	22,047,834	23,827,985

## Ⅱ. 現状と課題

### 1. これまでの山村振興対策の評価と問題点

本地域は、昭和42年度及び昭和43年度に振興山村の指定を受け、以降交通網の整備、農林業の振興、社会生活環境等の整備を中心に各種施策を講じてきた。これらの対策により農業生産基盤及び生活環境等の整備が進み、地域の活性化が図られたところである。しかしながら、依然として人口の減少に歯止めがかからず、高齢化が進行しているところである。

### 2. 山村における最近の社会、経済情勢の変化

国際化や都市化の進行に加えて、我が国全体の人口が減少局面を迎える中、長引く農林業の不振に加え、製造業等の産業も低迷するなど本地域内の雇用情勢は厳しい状況であり、若者を中心に人口の流出が続いている。

しかし、平成20年7月に指定地域のうち、美郷区域が梅酒特区の認定を受け、より小規模な主体も酒類製造免許の取得が可能となったため、新しい地場産業の創造となり、農業及び生産者の活性化が期待できるなど、他の農産物のイメージアップによる地産地消の促進などの波及効果の期待も高まっている。

### 3. 山村における森林、農用地等の保全上の問題点

森林については林業従事者の減少、農用地については耕作放棄地の増加が問題になっている。このような状況は近年の人口減少や高齢化の進行により拍車がかかっている状況であり、森林、農用地の有する国土保全機能の十分な発揮に向け、農林産物等の利活用と併せた保全活動の推進等の持続的な取組が必要である。

### 4. 山村における新たな課題

人口減少や高齢化の進行により、これまで地域で受け継がれていた農林産物の生産技術や食品の加工技術、伝統的な生活技術等が失われようとしている。

このため、引き続き産業基盤の整備を図るとともに、地域の特性を生かした商品開発・生産、地域の魅力を生かした地域産品の販売促進や観光の振興等による山村の活性化と定住促進が不可欠となっている。

また、本地域には救急医療施設がないことから救急医療に対する不安が大きく、高齢者比率の増加に伴う介護の重要性も高まっており、適正な医療・介護サービスの確保が必要である。高齢者などの安全・安心を守る観点も含め生活交通の確保が大きな課題となっている。

### Ⅲ. 振興の基本方針

#### 1. 本地域の自然的、社会的及び経済的条件の特徴と抱える問題点等

本地域は、四国山地の山間部に位置し、集落は川沿いや急峻な斜面に散在していることに加え、県庁所在地までは車で約1時間掛かるなど地理的条件に恵まれていない。また、本地域は森林の占める割合が多く、平地が少ないため、企業立地や地域内移動の条件も不利である。

このようなことから地域内の雇用機会に恵まれず、若年層を中心に人口の流出が続き、市内他地域よりも人口減少や高齢化が著しい状況にあり、地域経済・社会の維持が困難化している。

#### 2. 本地域の特性を生かした地域活性化の方針及び森林、農用地等の保全の方針

本地域は、農業生産条件が不利であることに加えて、産業立地条件も不利であり、引き続き、交通・通信基盤や生産基盤の整備が不可欠である。

本地域は、地域に受け継がれてきた伝統文化や豊かな自然環境を有している。人口減少社会において本地域の振興を図るためには、こういった地域の資源や潜在力を活かした産業振興が不可欠である。

このため、特色ある農林産物等の地域資源を活用した地域内発型の産業振興により、魅力ある地域づくりを進めていく必要がある。

#### 3. 山村振興の目標を達成するための主な方法

本地域の振興の方針を踏まえ、①農林業の生産性を向上するための道路交通網や生産基盤の整備、②地域の特性を活かした農林業振興、③学校再編を踏まえ、地域内の子どもたちに適切に教育を提供するための環境整備、④快適で充実した生活を確保するための基盤づくり等を推進することとする。

- ・ 道路交通網の整備、産業基盤の整備
- ・ 地域の特性を活かした産業振興
- ・ 教育環境の整備
- ・ 社会・生活環境の整備

## IV. 振興施策

### 1. 振興施策

#### (1) 交通施策

- ・ 人口減少・高齢化の進行に対応し、近隣市町村及び集落相互の生活交通を確保するため、市道等の整備を行う。
- ・ バス等の公共交通機関の維持に努めつつ、多様な主体の参画により日常生活交通の確保を図る。

#### (2) 情報通信施策

- ・ 災害時の情報伝達を円滑に行うため、防災行政無線の整備を行う。

#### (3) 産業基盤施策

- ・ 従事者の減少と高齢化を踏まえ、農林業施策の効率化を図るため、農林道の整備や各種補助金等の振興施策を実施する。
- ・ 地域の特色を活かした6次産業化の推進を図る。

#### (6) 文教施策

- ・ 本地域に居住する児童・生徒の通学手段の確保を図る。
- ・ 学校再編までの期間、複式学級支援教員の配置を行う。

#### (7) 社会、生活環境施策

- ・ 住民の生活環境の向上を図るため、簡易水道施設等の整備を推進する。
- ・ 人口が減少する中で住民の安全な生活を確保するため、自主防災組織等の防災体制の充実とともに小型ポンプ付積載車等の消防施設の整備を図る。

#### (11) 交流施策

- ・ 都市からの移住の促進に向けて交流人口を増大させるため、観光施設の改修や、地域イベント等の振興を図る。

#### (12) 森林・農用地等の保全施策

- ・ 治山・間伐対策等により、森林の保全を図る。

#### (14) 鳥獣被害防止施策

- ・ 有害鳥獣の捕獲促進により、被害の軽減を図る。

## 2. 産業振興施策促進事項の有無

産業振興施策促進事項の記載	記入欄 (該当する欄に○を記入)
記載あり (別紙参照)	
記載なし	○

## V. 他の地域振興等に関する計画、施策等との関連

本地域のうち、美郷区域においては、「過疎地域自立促進特別措置法」に基づく「過疎地域」に指定されており、「吉野川市美郷区域過疎地域自立促進計画」による諸施策を実施している。また、一部の区域は「辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律」に基づく「辺地」に指定されており、「辺地に係る総合整備計画」による施設整備を実施している。

## 参 考 資 料

都道府県名	市町村名	作成年度 ( 変 更 年 度 )
徳島県	吉野川市	平成18年度 ( 平成27年度 )
振興山村名	三山村 ( 旧山川町 )	東山村・中枝村・三山村 ( 旧美郷村 )
指定番号	昭和42年 ( 第291号 )	昭和43年 ( 第455号 )

### I. 振興事業の概算事業量及び概算事業費

( 単位 : 千円 )

施策区分	事業名 ( 施設名 )	事業主体名	概算事業量	概算事業費	備考
①交通施策	1 市道古井6号線(改良)	吉野川市	L=400m W=3.0m	42,000	
	2 市道張1号線(改良)	吉野川市	L=100m W=3.0m	21,000	実施中
	3 倉羅1号線(改良)	吉野川市	L=100m W=3.0m	14,000	
	4 湯下・古土地線(改良)	吉野川市	L=100m W=3.0m	20,000	
	5 川俣1号線(舗装)	吉野川市	L=2,100m W=3.0m	2,000	
	6 市道竹屋敷・小竹線(舗装)	吉野川市	L=730m W=3.0m	16,000	
	7 中村中筋・松尾線(舗装)	吉野川市	L=850m W=3.0m	23,000	
	8 千歳橋工事	吉野川市	L=11.8m W=4.1m	36,500	
	9 大正橋工事	吉野川市	L=18.0m W=3.6m	38,000	
	10 平橋工事	吉野川市	L=24.0m W=4.6m	30,000	
	11 田平橋工事	吉野川市	L=22.4m W=3.1m	25,000	

(単位：千円)

施策区分	事業名 (施設名)	事業主体名	概算事業量	概算事業費	備考
①交通施策	12 城戸橋工事	吉野川市	L=18.1m W=4.0m	20,000	
	13 峠2号橋工事	吉野川市	L=6.0m W=3.6m	5,000	
	14 市道維持補修事業	吉野川市		150,000	実施中
	15 代替バス運行事業	吉野川市	29,120便 734,920km	72,390	実施中
	16 福祉タクシー事業	吉野川市		14,000	実施中
	小計	—	—	528,890	—
②情報通信施策	17 防災行政無線整備事業	吉野川市	2基	10,000	
	小計	—	—	10,000	—
③産業基盤施策	18 農道峠線(新設)	吉野川市	L=260m W=3.0m	30,000	
	19 林道倉羅檜平線(新設)	吉野川市	L=731m W=4.0m	198,000	実施中
	20 林道城戸西野峰線(新設)	吉野川市	L=300m W=4.0m	45,000	
	21 林道維持補修事業	吉野川市		30,000	実施中
	22 農業振興事業	地域活動団体		5,160	実施中
	23 麻産業創出推進事業	吉野川市		15,000	
	小計	—	—	323,160	—
⑥文教施策	24 スクールバス購入事業	吉野川市	新規購入3台 更新2台	15,000	
	25 スクールバス運行事業	吉野川市		71,000	実施中
	26 複式学級支援教員配置事業	吉野川市		7,449	実施中
	小計	—	—	93,449	—

(単位：千円)

施策区分	事業名 (施設名)	事業主体名	概算事業量	概算事業費	備考
⑦社会、生活環境施策	27 簡易水道施設	吉野川市	2施設	50,000	実施中
	28 浄化槽整備事業	吉野川市	7人槽 8基	3,312	実施中
	29 小型動力ポンプ積載車整備事業	吉野川市	B3級 2台	10,000	
	小計	—	—	63,312	—
⑩交流施策	30 観光施設改修事業	吉野川市	1施設	33,000	
	31 美郷一周駅伝実施事業	実行委員会		4,000	実施中
	小計	—	—	37,000	—
⑫森林、農用地等の保全施策	32 治山事業	吉野川市		20,000	実施中
	33 間伐対策事業	吉野川市	700ha	50,000	実施中
	34 中山間地域等直接支払交付金事業	吉野川市	14集落 1地区	59,000	実施中
	小計	—	—	129,000	—
⑭鳥獣被害防止施策	35 有害鳥獣捕獲業務委託事業	吉野川市		22,000	実施中
	小計	—	—	22,000	—
総計				1,206,811	—

## II. 振興事業説明図

### Ⅲ. 前回の計画の実績と今回の計画との関連

(単位：千円)

(A) 施策区分	前回の計画		今回の計画		(D) 構成比		備考
	(B) 計画額	実績額	(C) 計画額	(C)/(B)	前回	今回	
①交通施策	227,100	105,451	528,890	232.9%	20.8%	43.8%	
②情報通信施策	427,504	57,931	10,000	2.3%	39.2%	0.8%	
③産業基盤施策	376,850	402,558	323,160	85.8%	34.5%	26.8%	
⑥文教施策	0	0	93,449	-	0.0%	7.7%	
⑦社会、生活環境施策	60,000	82,161	63,312	105.5%	5.5%	5.2%	
⑪交流施策	0	0	37,000	-	0.0%	3.1%	
⑫森林、農用地等の保全施策	0	0	129,000	-	0.0%	10.7%	
⑭鳥獣被害防止施策	0	0	22,000	-	0.0%	1.8%	
合計	1,091,454	648,101	1,206,811	110.6%			